

みどり
と
ひと

吉祥寺北町在住
横山由佳利、ペザリ・ウォルターさんご夫妻

フランスと日本で同時に進む自然回帰

フランス生まれのウォルターさんと由佳利さんご夫妻は、1999年にフランスでご結婚。25年前に武蔵野市に居を構え、日本を拠点にして、フランスのグラフィックノベルの彩色家としてお仕事をされているそうです。



武蔵野市には長年住んでこられましたが、ご近所とのお付き合いはあまり多くなかったそうです。ところが3年ほど前、吉祥寺北町の緑地で花壇の手入れや草刈りなどのボランティア活動に参加したことをきっかけに、ご近所との交流が増えたとか。

「夏は毎年フランスに1か月ほど帰ります。今年も8月に、ウォルターの実家のあるブルターニュ地方で夏休みを過ごしました。」お二人は日本の植物にかかわるようになってから、フランスの緑地を今までと違った視点で見るようになったそうです。とくにロワール川沿いのナントでは、植物の見せ方が非常に変化していることに衝撃を受けたといいます。

「以前は、フランスではヴェルサイユ宮殿に代表されるような、左右対称で幾何学的な構成の庭園が主流でしたが、近ごろは植物本来の自然な動きを生かした野性的な植栽が増え、のびのびと育ったみどりが古い建築に

も融け合って、風景にゆとりの雰囲気が感じられました。」コロナ後はこうしたみどりのある空間での散歩や読書、ピクニックを楽しむ人が増えているそうです。

このような「自然回帰」の傾向は吉祥寺の近隣の花壇や緑地でも見られます。植物の生命力と個性を生かした植栽が日本でも好まれてきているのかもしれません。



ナントの中心部にあるユニークな“庭園”。コンクリートに囲まれた小さな中庭が、まるでジャングルのようにになっている。1994年にナントに住み始めた一人のアーティストが小さな鉢植えから少しずつ広げていったという

むさしの緑・環境の情報誌

みちまちみどり Vol.44

2025年10月第1刷発行 制作／一般社団法人グリーンボード

発行／武蔵野市 商用・非商用を問わず、無断転用、複写、転用を禁じます。

特集

武蔵野の歴史とみどり散歩
「むさしのの道」昔と今

むさしの 緑・環境の情報誌

み ま み
ど ち ち
り
Vol. 44
2025 autumn

表紙イラスト「ツリバナ」

武蔵野の歴史とみどり散歩 「むさしのの道」昔と今

武蔵野市には風情のある道がいくつも存在します。家族で楽しむ緑道も、ふだん何気なく歩いている生活道路も、その道が生まれた背景をたどれば様々な歴史が見えてきます。人々が苦勞してつくり、大切に守り継いできた大いなる遺産とみどりを探しに行きませんか。

江戸時代から令和まで、水が育んだみどりの道

① 玉川上水沿いの道

玉川上水は江戸への上水道として承応2(1653)年に開かれました。多摩川の羽村取水口から四谷大木戸までの43kmという壮大な事業は、玉川兄弟(庄右衛門と清右衛門)によって、わずか7か月で完成したとされています。江戸の土木技術おそるべし!

現在の上水沿いはゆったりした散策路で、木々におおわれた林のような場所もあります。春はやはり桜並木が楽しみ。桜は徳川八代将軍吉宗の時に植えられ、その後「小金井桜」として有名になり、浮世絵にも描かれて江戸近隣の人々の観光地となりました。

上水は明治時代には物資を運ぶ水路として利用されたこともありますが、水が汚れ2年後には禁止されました。その後昭和に入ると玉川上水を埋めて道路にする計画も持ち上がりました。しかし多くの文化人が声をあげ、玉川上水を守る市民運動も盛んになりました。その結果、清流復活事業が始まり、上水の流れはよみがえりました。周囲の自然景観も残され、市民の憩いの場となっています。



けやき橋から西に向かう土の道は足裏にやさしい。雨上がりには枯葉、草花、土の匂いなどが混じりあった自然の香りに包まれる



桜の季節は上水の大橋あたりは華やかで優美



参詣道の面影を残す 古道に咲く椿

② 大師通り

大師通りはかつて玉川上水の大橋を経て深大寺と旧関前村などを結ぶ参詣道でした。現在は浄水場北の、大ツバキのある伊藤家の東から始まります。北に進むと小川や竹林、雑木のあるのどかな雰囲気の市民の森公園を経て、五日市街道沿いにある名主だった井口家の畑の中にある大ツバキを遠くに望み、千川小から伏見通りまでの道です。
※大ツバキは個人宅にあります。敷地内に立ち入らない様にお願いいたします。



関前の旧家伊藤家に伝わる大ツバキで樹高約9m。春に一重で紅色の花が満開に

焼野原の引き込み線跡地から生まれた遊歩道

③ グリーンパーク緑地(遊歩道)

武蔵野中央公園あたり一帯は戦時中に「中島飛行機武蔵製作所」があった場所で、零戦など軍用機のエンジンを製造していました。戦後その跡地に「東京スタジアム」が造られ、工場へ資材の輸送をしていた引き込み線は、スタジアムへの観客輸送のため昭和34年まで利用されました。その線路跡地が現在の遊歩道です。

散策は引き込み線の橋台のあったざんなん橋から歩を進めます。井ノ頭通りを渡ると開けた広場があり、ここに「関前高射砲陣地跡」があります。その先にはトンボ池のある「関前公園」。そこから北に進むと藤棚が見え、広場や水辺の植物が充実しているビオトープがあります。さらに進むと木々の間から武蔵野中央公園が見えます。これが中島飛行機の工場跡地で緑地の終点です。



緑地のビオトープ
小さな橋、水辺の草、ヤナギなど自然を感じるみどり豊かな空間



ビオトープの向かいの緑地
オオバコやクローバーが広がり、タヌキ、コゲラ、カルガモを見かけることも



緑の屋根が目印の山本有三記念館



「無電柱化」をして歩きやすく美しい道へ

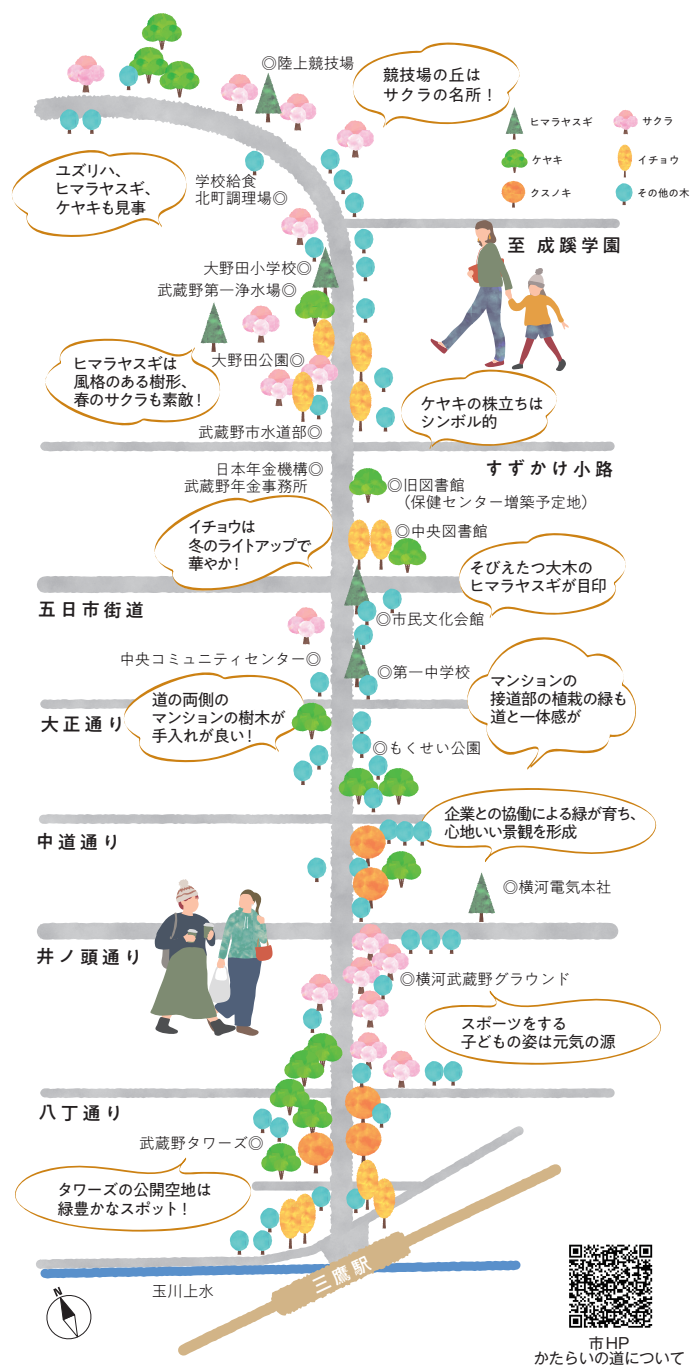
④ かたらいの道

三鷹駅北口から北に向かう「かたらいの道」は地域の人だけでなく、来訪者にとっても利便性がよい道路です。沿道に企業のグラウンド、文化施設、陸上競技場などが集まり、歩行者や自転車の優先道路として「道路の景観」を重視した整備が進められてきました。令和7年度にこの事業が終わる予定です。さまざまな道路の課題をふまえて「無電柱化」など新たな技術や手法で、ゆったりとした道の空間が実現しました。心地よく美しい今の道づくりを知りながら歩いてみませんか？



三鷹駅近くの2棟の武蔵野タワーズの公開緑地は高木だけでなく、低木も充実しており、緑陰には爽やかな風が吹き抜ける

樹木を観察してみよう！



地元育ちで近隣にお住いの
樹木医 村井壽夫さんに聞く

「かたらいの道」の樹木、
無電柱化に相応しい大樹にそだてよう！

かたらいの道は無電柱化の事業が本年度に完了します。このあたりは50年前は、水道部以外は公共施設やマンションも少なく、空き地が多かった印象があります。

三鷹駅近くの2棟のタワーマンション辺りは、かつては大きな屋敷林でした。今でも保存樹のケヤキ、シラカシは、建物に負けない存在感があり、広い緑陰をつくっています。この道の中央部にある横河電機の見事に手入れをした木々は主要なみどり景観を形成しています。また五日市街道の辻にある市民文化会館は45年前（1980年）までは市役所があり、ヒマラヤスギがデンと構えています。終点あたりの陸上競技場は、外周をヒマラヤスギとソメイヨシノの大樹が囲っています。樹木の老齢化や落雷もありましたが、ボリュームのある外周林は、これからも維持されるでしょう。

沿道の公共施設、学校、マンション、個人の住宅それぞれのみどりが、電線の無い空を背景に多彩な風景を見せてくれます。沿道の貴重な大樹を次世代に残せるよう、これからの育成管理が大切です。



村井壽夫（むらい ひさお）
吉祥寺北町生まれ。大野田小学校、第四中学校卒業。大学で造園を学び日本庭園作家に弟子入り後、公共の公園緑地の計画・設計等に從事し、現在は武蔵野市文化財保護委員
〔専門分野 天然記念物（造園樹木学）〕



横河武蔵野グラウンドサクラの太い枝越しに、広々としたフィールドを望むと可愛らしいラガーマンの声が響く

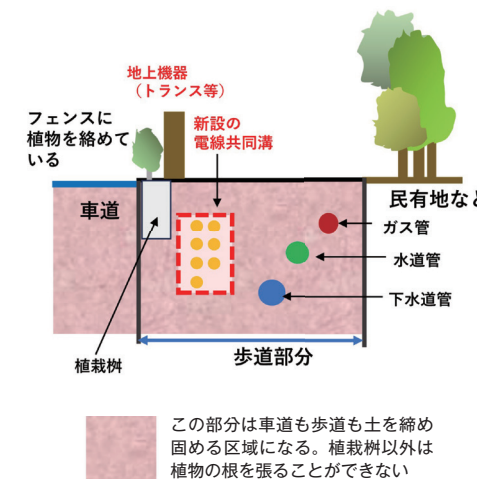


左：横河電機本社企業との協働の木々が育ち、歩道の緑が豊か。秋にはサルスベリの黄葉が美しい
右：中央図書館五日市街道にある中央図書館の前庭のイチョウやコナラなど。電線は五日市街道のもの

旧図書館
株立ちのケヤキはこれからもシンボルとしてまちを見守ってほしい

無電柱化すると
高い木が植えられない？

電柱が無くなれば歩道が広くなり、みどりが増えると思われがちです。しかし無電柱化すると、地上にあったインフラをまとめる地中空間が必要になります。そのため道には木が根を張る場所が無くなり、歩道には樹木が植えにくくなります。道路の景観を維持するためには、道路に面した「接道部」の敷地の緑化が鍵となるのです。樹木や緑地に囲まれた「かたらいの道」の豊かな景観は、じつは公共の施設のほか地域住民や企業の協力の上に成り立っているのです。



プランターより右はマンションの敷地だが開放的な緑地で歩道が広々

むさしの インフォメーション

武蔵野市役所環境部からのお知らせ



ごみ総合対策課 TEL 0422-60-1802

武蔵野市×FRY to FLY Project ～使用済み油で空を飛ぶ!?～

11月16日に開催される「第18回むさしの環境フェスタ」において、ご家庭で使わなくなった食用油（廃食用油）を回収します。最新の技術を用いると廃食用油から持続可能な航空燃料（SAF）をつくることができます。従来の航空燃料に比べてCO₂の排出量をおよそ80%削減することができます。地球にやさしい活動に取り組みませんか？当日はVR体験も行います。詳細はホームページをご確認ください。



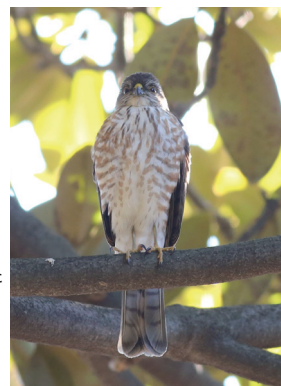
使用済み油で空を飛ぶ!?

環境政策課：計画係 TEL 0422-60-1841

市内の生きものの調査を行いました

私たちの身の回りには、さまざまな生きものが生息・生育しています。生きものたちを守り、豊かな自然を未来につないでいくため、武蔵野市は生物多様性を保全する取り組みの一つとして、概ね5年おきに市内の生きものの生息状況調査を行っています。

令和6年度は、専門の調査員が実施する調査のほか、市民の生きものへの関心を高めるため、親子で土の中の生物や冬に活動する蛾を探し、生きものの習性や生態を学ぶ市民参加のイベントも併せて実施しました。



生息が確認できた
ツミ（タカ科）



令和6年度
生物生息状況調査

下水道課 TEL 0422-60-1867

下水道の老朽化対策を進めています

現在、市内にある下水道のうち約7割が耐用年数50年を超えているという背景を踏まえ、市民のみなさまの安全・安心を確保していくために、以下のような対策を実施しています。

- 下水道ストックマネジメント計画による対策
- 大規模下水道管路特別重点調査
- 日常的な維持管理



武蔵野市HP
老朽化対策について

武蔵野市 緑のまち推進課からのお知らせ



緑のまち推進課公園係 TEL 0422-60-1864

十一小路緑地を整備します

- 公園の所在 吉祥寺東町2丁目24番地内
- コンセプト 「さくらの庭」



既存樹木を活かしつつ、「さくら」のある空間を展開しました。さくらの花を長い期間楽しめるようにソメイヨシノ（既存樹）の開花時期以外に開花する樹種も選定しています。

令和6年度に実施した意見交換会を踏まえ設計を行い、今年度整備を行います。開園は、令和8年の春頃を予定しております。



整備イメージパース

緑のまち推進課緑化係 TEL 0422-60-1863

身近な緑を創出する～接道部緑化助成制度～

目に触れる身近な緑を増やし、快適で安全な生活環境をつくるため新たな接道部緑化費用の一部を助成します。

助成の対象となる接道部緑化は、建築基準法で規定する道路に面し、接道面より容易に見通せる5m以内の範囲で、生垣（四ツ目垣を組んだ垣根）または高木・中木・低木等（地被を除く）の新たな植栽を連続して延長3m以上植えるものです。



緑化推進に関わる助成について



編集 / 鈴木圭子 明石和美
小出行観 牧野桂子
デザイン / 奥富佳津枝
イラスト / 奥山英治（P4 樹木）
木村文（表紙、P6,7）
編集顧問 / 中村滋

お問合せ先

武蔵野市環境部緑のまち推進課

〒180-0777 武蔵野市緑町2-2-28

☎ 0422-60-1863

e-mail SEC-MIDORI@city.musashino.lg.jp



武蔵野市公式HP
「みちまちみどり」